



沼津西ロータリークラブ



2022～2023 年度・クラブテーマ

「イマジンしよう みんなのロータリー」

会長 土屋 昌之 / 幹事 渡邊 勝也

第 1432 回 第 32 巻 8 号 2022 年 9 月 1 日

例会プログラム

■ 外部卓話 ■

若林秀典 地区公共イメージ向上委員長

9 月のプログラム

1433 回 12:30 9 月 8 日(木)	アークガーデン迎賓館 外部卓話 沼津市文化振興課
1434 回 9:00 9 月 11 日(日)	原千本浜海岸 移動・曜日変更 第 2 グループ 合同奉仕作業
9 月 22 日(木)	祝日週休会
1435 回 12:30 9 月 29 日(木)	米山梅吉記念館 米山奨学生卓話 ロータリー財団委員会 移動例会

例会場 〒410-0046 沼津市米山町 3-37

アークガーデン迎賓館沼津

TEL 055-920-5200

事務局 久松会計事務所内

TEL 055-961-2050 FAX 055-961-2600

E-mail: numawestrc@gmail.co

例会日 毎週木曜日 12:30 点鐘

公共イメージ向上委員長 久松 但 / 編集者 山本 哲之

会長挨拶

● 会長 土屋 昌之 ●

今年度は「ポリオ撲滅を歴史の 1 ページに」という地区目標が掲げられています。

1980 年代末の時点で、毎年 35 万人の子供がポリオウイルスによる身体まひの犠牲になっていました。ロータリーとパートナー団体は今日までにポリオの症例を 99.9% 減少させることに成功し、天然痘に次いで史上 2 番目となる疾病の根絶まであと少しのところまできています。現在野生株ポリオウイルスが常在する国は、パキスタンとアフガニスタンの 2 개국で、パキスタンでは、2021 年 1 月感染者が確認されて以降、新たな感染者数が 0 であったと発表されました。

しかし、今月気になる記事を目にしました。米国内で、9 年ぶりとなる感染者が 7 月にニューヨーク州内で確認されました。その後、州と市の保健当局が調査を進めた結果、ニューヨーク市内の下水からポリオウイルスを検出したと公表しました。ニューヨーク市長は「ポリオは過去の病気だと考えていたが今も真剣に向き合わなければならない病気だった」と警戒を強め、同州保健当局の博士も「1 人の感染者が見つければ、数百人の隠れた感染者がいるかもしれない」と指摘しています。

また、ロンドンでも下水からポリオウイルスが検出され、8 月 10 日英国政府は、ロンドン市に住む 1~9 歳の子供に追加接種を促す取り組みを決めました。

以前、世界各国の科学論文を紹介する雑誌「Nature」に、「ポリオウイルス最後の隠れ家」という記事がありました。要約すると、子供の頃に投与された経口ワクチンに含まれていた弱毒化ポリオウイルスが、免疫系の働きが弱い子供の体内で生き続け、長年にわたって腸や気道から大量のウイルスを排出し続けるとのこと。そして野生株ポリオウイルスが絶滅し各国がワクチン接種を削減した時に、先進国からポリオが復活する可能性がある。といった内容でした。

アメリカ疾病対策センターの調査で、ここ数年コロナウイルス禍での外出自粛が影響したのか、1 年間のポリオワクチン接種率が低下していることが明らかになっているそうです。

WHO によると、世界の多くの国でも同様の傾向が出ているとのこと。

ロータリーは 8 月 18 日付けで、米国と欧州のポリオ検出に関するロータリーの声明を発表しています。

マイロータリーやネットでも検索できますので、ご一読下さい。

出席報告 会員数 24 名			
例会	会員数	出席数	出席率
1432 回	24 名	21 名	87.50%

◎ ゲスト

1. 若林秀典様(藤枝南 RC)
：地区公共イメージ向上委員会委員長
2. 杉山茂範様(藤枝南 RC)
：地区公共イメージ向上委員会委員

◎ 欠席者 (3 名)

井上武雄、本村文一、渡邊勝也

◎ スマイル報告

- 1.久松 但：若林委員長、卓話よろしくお願ひします。
- 2.山本宜司：本日は、卓話をよろしくお願ひします。
- 3.鈴木良則：お久しぶりです。
- 4.下田朗弘：第三子(男の子) 無事に生まれて家族が一人増えました。
- 5.成田みちよ、6.颯川ゆう子
：所用の為、早退させていただきます。

幹事報告

1. 他クラブの例会変更等

ございません。

2. 報告・連絡事項

- (1) 9/11(日) 第2グループ合同奉仕事業の出欠席をご記入下さい。
- (2) 11/5(土).6(日) 地区大会の出欠席をご記入下さい。

外部卓話

「公共イメージと認知度向上の重要性」



地区公共イメージ向上委員会委員長
藤枝南 RC 若林 秀典様

国際ロータリー第 2620 地区の公共イメージ向上委員会は 2017～2018 年度に、広報委員会から名称変更になりました。当時は変更の意味も意義もわかりませんでした。委員長になっていきさつを調べてみますと RI が 2010 年に列挙した 3 つの優先項目に

- 1)クラブのサポートの強化
- 2)人道的奉仕の重点化と支援
- 3)公共イメージと認知度の向上

とあります。この 3 つの優先項目は、スパイラル効果があります。

人道的奉仕を行う→公共イメージが向上する→支援者が増え、会員増強にもつながる(クラブのサポートと強化)→人道的奉仕がさらに進む、まさに正のスパイラル効果です。このスパイラルに必要なことが、公共イメージと認知度向上のそのものです。とありました。確かに良いイメージのところには人が集まってくると考えられます。つまり、広報するだけではなく、イメージを向上することにより認知度を上げようというのが名称変更の目的だったのです。

第 2530 地区(福島県中心 2022 年)の認知度調査では、名前だけ認知しているのは 55%、内容をどのくらい知っているかを見てみると約半数は全く知らないということです。周囲の人たちが持つイメージは「富裕層、企業役員、歴史がある、年寄、社交クラブ、男性等」で、なるほどと思う部分もありますがもっと知りたいと思う気持ちもあります。知っている年齢層は高いので、SNS などのソーシャルメディアからの認知経路は低かったようです。それではロータリアンが他の奉仕団体をどのくらい知っているのでしょうか？

ライオンズ、ボーイスカウト、ガールスカウトなどの名前は知っていますが内容はどうでしょう？ソプロチミスト、キワニス、ゾンタクラブ、ワイズメンズクラブ国際協会となると名前すら聞いたことがないという方も多いのではないのでしょうか？なかなか団体名を一般の方に覚えてもらうことはハードルが高いというのが実感です。

浅原ガバナーの方針は、できるだけお金をかけないで行うということです。1 クラブ 1 記事を新聞に取り上げられるような特徴のある奉仕活動をやって下さいということでした。しかし、メディア関係者の方に伺うと「公共性の観点から、ロータリーばかりで紙面を埋めることはできかねます。」という返事でした。確かに大きなクラブは質、量とも豊富で対応できるかもしれませんが小さいクラブが背伸びしてやるのも大変です。個々のクラブの事業は努力目標にして、複数のクラブでやった事業も可となりました。実際、マスメディアが取り上げてインパクトが高かったのが、安間パストガバナーが新型コロナのはやり始めた時にやったフェイスシールドの寄贈と静岡クラブがウクライナ戦争の初期に募金活動を行ったことでした。時勢に即した速やかな対応でした。